エコアクション21

# 環境経営レポート

## 2022年度運用版

（運用期間:2022年 7月～2023年6月）

令和3年度　菊戸橋橋梁修繕工事（2023年2月10日完成）

発行日:2023年12月22日

世紀建設 株式会社

エコアクション21
認証番号 0012804

# 目　　次


1. 組織の概要 …… 1

2. 認証・登録の対象範囲 …… 1

3. 環境経営方針 …… 2

4. 実施体制 …… 3

5. 環境経営目標 …… 4

6. 環境経営計画 …… 5～6

7. 環境経営目標の実績 …… 7

8. 環境経営計画の取組結果と
その評価、今後の取組内容 …… 8～10

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価
の結果、並びに違反、訴訟等の有無 …… 11

10. 代表者による全体評価と見直しの結果 …… 11

# 1. 組織の概要

1）事業所名　　世紀建設 株式会社
　代表者氏名　　代表取締役　野村　政太郎

2）所在地　　本　社　　〒861-1323　熊本県菊池市西寺1834番地
　　資材置場　　同上
　　駐車場　　同上

3）環境管理責任者 藤野　彰
　連絡担当者　　野村　奈津恵
　連絡先　　TEL　0968－25－0783　　FAX　0968－25－0793
　　Eメールアドレス　　seiki@almond.ocn.ne.jp

4）事業の内容　　土木工事業、解体工事業
　　・建設工事業　　熊本県知事許可（ 特 － 3 ） 第 10303 号
　　・産業廃棄物収集運搬業業　熊本県知事許可　第 04300174087 号
　　（自社工事分で発生する産業廃棄物のみの取扱で、業としては行っていない）
　　URL　　https://www.kensetumap.com/company/482992/profile.php

5）事業の規模　　総売上額:490百万円(2022年度)

| 区分 | 単位 | 本社 | 資材置き場 | 駐車場 |
|---|---|---|---|---|
| 従業員数 | 人 | 13 | ― | ― |
| 延床面積 | ㎡ | 240 | 1,400 | 180 |

6）事業年度　　2022年7月～2023年6月

# 2. 認証・登録の対象範囲

認証登録NO.0012804　　認証登録日　2019年6月19日

1）対象事業所　　本社・資材置場

2）対象活動　　特定建設業（土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、
　　舗装工事業、解体工事業）、一般建設業（建築工事業）

# 3.環境経営方針

## 環境経営理念

当社は、建設工事を中心とし『発注者の期待に応えるものづくり』を経営理念に掲げ、私たちのくらしに必要な社会インフラを整備し、安全・安心・快適な環境づくりに貢献しています。
事業を実施するにあたり、地球の恵みである資源・エネルギーの効率的な利用を図り、私たちの暮らしの土台となっている地域環境・地球全体の環境を次世代に継承するため、環境経営システムを構築し、全社員が一丸となって環境保全の取り組みを継続的に改善していきます。

## 行動指針

1. 私たちは以下の項目について、重点項目として取り組みます。

(1) 電気・燃料の効率的利用による二酸化炭素排出量の削減。

(2) 廃棄物排出量の削減、およびリサイクルの推進。

(3) 節水による水使用量の削減。

(4) 人材育成

(5) 地域清掃活動等の社会貢献活動の推進。

(6) 受注工事の品質向上に努める。

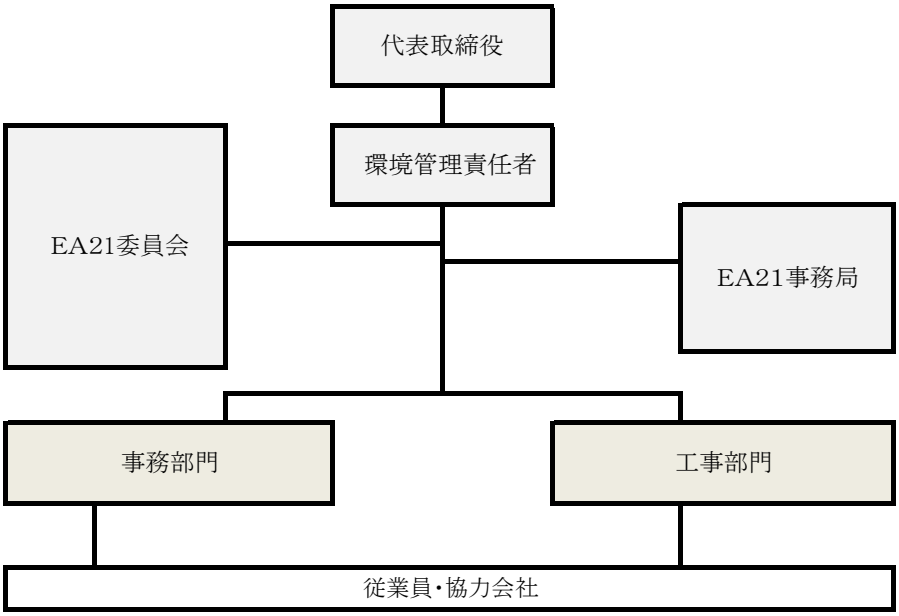
2. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。

3. この環境経営方針は全社員に周知し、環境経営目標・環境経営活動計画は毎年、見直しを行い、スパイラルアップし、成長する組織を目指します。

制　定　日　：　2018年9月30日
改　訂　日　：　2021年6月30日

世紀建設 株式会社
代表取締役　野村　政太郎

# 4.実施体制




役割分担表

| 所　属 | 役割・責任・権限 |
|---|---|
| 代表者 | ・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ<br>・環境方針を作成・見直し、従業員に周知する<br>・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する<br>・環境への取組を実施するための資源（人・もの・金・情報）を準備する<br>・EA21の取組状況に関し全体評価し、見直しを指示する |
| 環境管理責任者 | ・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。<br>・毎年、環境目標、環境活動計画を見直し・作成する。<br>・取組状況を毎月確認し、四半期ごとにEA21委員会を開催し評価する。<br>・上記の結果を代表者に報告する。 |
| EA21委員会 | ・四半期ごとに開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況を確認すると共に、評価する。<br>・問題点が発生した場合は、原因を究明して必要な是正処置を検討する。 |
| EA21事務局 | ・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う<br>・社外からの環境情報の収集と伝達を行う |
| 部門責任者 | ・環境方針、環境目標、環境活動計画を全員に周知する<br>・環境目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する<br>・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する<br>自部門に関連する法規制等を遵守する<br>・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する<br>・自部門の教育・訓練を実施する |
| 全従業員 | ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する<br>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する |

# 5. 環境経営目標

・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、新たに2020年度を基準年に設定し、2021年度～2024度までの中期目標として、以下の6項目10目標をサイト区分(事務所、現場、全社)して設定しました。
・主要な環境負荷である二酸化炭素排出量と水使用量については、基準年(2020年度実績値)を基準に、毎年 1%ずつ削減し、2024年度までに4%削減を目指します。
・事業活動で取り組む本業目標については、「工事の品質向上」 を掲げ、全社をあげて取り組んで環境経営を推進していきます。

| 環境目標 | サイト区分 | 単位 | 基準年 2020年度 | 目標 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2021年度 (1%削減) | 2022年度 (2%削減) | 2023年度 (3%削減) | 2024年度 (4%削減) |
| | | | 2020年7月～2021年6月 | 2021年7月～2022年6月 | 2022年7月～2023年6月 | 2023年7月～2024年6月 | 2024年7月～2025年6月 |
| (1)二酸化炭素排出量の削減 | 全社 | kg-$CO_2$ | 225,765 | 223,508 | 220,367 | 218,992 | 216,735 |
| ①電気使用量の削減 | 全社 | kWh | 10,306 | 10,203 | 8,192 | 9,997 | 9,894 |
| ②ガソリン使用量の削減 | 事務所 | ℓ | 4,240 | 4,198 | 4,155 | 4,113 | 4,071 |
| ③軽油使用量の削減 | 現場 | ℓ | 81,841 | 81,022 | 80,204 | 79,385 | 78,567 |
| (2)廃棄物の削減、リサイクルの推進 | | | | | | | |
| ①一般廃棄物排出量の削減 | 事務所 | kg | 140 | 139.0 | 137.0 | 136.0 | 134.0 |
| ②産業廃棄物のリサイクル率の向上 | 現場 | % (リサイクル率) | 90%以上 | 90%以上 | 90%以上 | 90%以上 | 90%以上 |
| (3)水使用量の削減 | 事務所 | $m^3$ | 125 | 124 | 123 | 121 | 120 |
| (4)人材育成 建設キャリアップシステム準備 | 全社 | 計画実施率 | － | 建設キャリアアップシステム登録完了 | 90%以上 | 90%以上 | 90%以上 |
| (5)社会貢献活動の推進 | 全社 | 件数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| (6)工事の品質向上 | | | | | | | |
| ①工事評価点の向上 | 現場 | 点 (平均) | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 |

・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.463kg-CO2／kWh（九州電力(株)2017年度調整後）を使用した。
・( )内の数値は、基準年（2017年度実績値 )に対する削減率を示す。
・2018年度試行運用期間の目標値は、前年度の同期間実績値から設定した。
・サイト区分の全社とは、事務所＋現場を示す。
・化学物質は使用しないので、目標から除外した。
・建設現場での軽油使用については、事務所タンクにて給油している。

# 6. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組(活動項目)を設定して、全社員で取り組みました。

## (1)二酸化炭素排出量の削減

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①電気使用量の削減 | 全社 | 1. 本社事務所の室温は、冷房期、暖房期においてエアコンで適温に調整する | 冷房期：5～9月<br>暖房期：11～3月 |
| | | 2. ｴｱｺﾝの清掃(ﾌｨﾙﾀの清掃･室外機の保護)を行う。 | 3ヶ月に1度 |
| | | 3. 業務終了時に完全に電源を切る (PC) | 通年 |
| | | 4. 倉庫・トイレは使用時のみ点灯<br>不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF | 通年 |
| ②ガソリン使用量の削減 | 事務所 | 1. 無駄なアイドリングをさける | 通年 |
| | | 2. ﾀｲﾔの空気圧ﾁｪｯｸを行う | 月1回以上 |
| | | 3. 社有車の走行距離と燃費を管理する | 通年 |
| ③軽油使用量の削減 | 現場 | 1. 急減速、急加速をさける | 通年 |
| | | 2. 無駄なアイドリングをさける | 通年 |
| | | 3. 現場規模に合った重機を使用する | 通年 |
| | | 4. 適切な作業ﾓｰﾄﾞで作業を行う | 通年 |
| | | 5. 燃料無噴射状態(ｴﾝｼﾞﾝﾌﾞﾚｰｷ)等の走行をする | 通年 |
| | | 6. 社有車の走行距離と燃費を管理する | 通年 |

## (2)廃棄物排出量の削減、リサイクルの推進

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①一般廃棄物排出量の削減 | 事務所 | 1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する | 通年 |
| | | 2. 裏紙使用、両面ｺﾋﾟｰの励行 | 通年 |
| | | 3. 情報機器を使用し共有化を行い、重複資料等を減らす | 通年 |
| ②産業廃棄物のリサイクル率の向上 | 現場 | 1. 現場における廃棄物の分別徹底 | 通年 |
| | | 2. 現場代理人はマニフェストの管理を確実に行う | 通年 |

## (3)水使用量の削減

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①水使用量の削減 | 全社 | 1. 日常の節水・漏水の点検 | 通年 |
| | | 2. 節水の励行・洗車は必要最小限とする | 通年 |

## (4)人材育成の推進

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①人材育成の推進 | 事務所 | 1. 建設キャリアアップシステム運用 | 通年 |
| | 現場 | 1. 技能研修の実施 | 通年 |

## (5)社会貢献活動の推進

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①社会貢献活動の推進 | 全社 | 1. 地域等のボランティア活動に積極的に参加する。 | 通年 |

## (6)工事の品質向上

| 取組目標 | サイト区分 | 具体的な取組(活動項目) | スケジュール |
|---|---|---|---|
| ①工事評価点の向上 | 現場 | 1. 工程手順と天候を確認し、効率的な段取りを行い、工期を遵守する | 通年 |
| | | 2. 評価点結果を分析し、弱点領域を強化する | 通年 |
| | | 3. 工程毎の書類・写真管理を徹底する | 通年 |
| | | 4. 発注担当者との情報共有・コミュニケーションを積極的に行う | 通年 |

# 7. 環境経営目標の実績

・今回の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した環境経営目標6項目11目標のうち、
　達成　◎○　　8項目、
　未達成×　　3項目　　となりました。
・二酸化炭素排出量については、電気使用量・ガソリン使用量が計画を上回ったにもかかわらず、影響の大きい軽油使用料が目標を下回った為、全体としてCO2排出目標を達成することができた。
・一般廃棄物の削減については、資料の大量廃棄等によるシュレッダーゴミの増加で目標未達となったが、一過性であると判断。リサイクル率向上については、目標を達成しており、排出のサイクルが把握できたので、さらに分別をすすめ、再資源化できるように今後も取り組んでいきます。
・水使用量は、地下水活用により水道水は減少し目標を大幅に下回り目標を達成している。
・人材育成については、建設キャリアアップシステム導入を目標にして取組み、計画通り完了した。また、現場の教育訓練は計画通り実施した。
・「社会貢献活動の推進」では、地域とのコミュニケーションを図りながら、積極的にボランティア活動に参加し、社会貢献に努めています。
・本業目標とした「工事の品質向上」についての工事評価点は、9件の工事の評価点を用いて評価しました。
　今後も点数につながる項目に留意しながら施工管理を行っていきます。

| 環境目標 | サイト区分 | 単位 | 2022年度運用期間（2022年7月～2023年6月） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 目標 | 実績 | 目標達成率（%）※1 | 目標達成評価※2 |
| (1)二酸化炭素排出量の削減 | 全社 | kg-$CO_2$ | 220,367 | 152,011 | 145% | ◎ |
| ①電気使用量の削減 | 全社 | kWh | 8,192 | 9,330 | 88% | × |
| ②ガソリン使用量の削減 | 事務所 | ℓ | 4,155 | 7,419 | 56% | × |
| ③軽油使用量の削減 | 現場 | ℓ | 80,204 | 49,973 | 160% | ◎ |
| (2)廃棄物の削減、リサイクルの推進 | | | | | | |
| ①一般廃棄物排出量の削減 | 事務所 | kg | 137 | 136 | 101% | ○ |
| ②産業廃棄物のリサイクル率の向上 | 現場 | %（リサイクル率） | 90%以上 | 100 | 111% | ○ |
| (3)水使用量の削減 | 事務所 | $m^3$ | 121 | 38 | 318% | ◎ |
| (4)人材育成の推進 | 事務所 | %（金額割合） | 申請完了率100% | 100% | 100% | ○ |
| | 現場 | %（現場割合） | 計画実施率 | 100 | 100% | ○ |
| (5)社会貢献活動の推進 | 全社 | 件数 | 2 | 5 | 250% | ◎ |
| (6)工事の品質向上 | | | | | | |
| ①工事評価点の向上 | 現場 | 点（平均） | 80 | 81 | 101% | ○ |

備考）※1 目標達成率の計算　目標÷実績×100（削減目標の場合）、 実績÷目標×100（増加目標の場合）
　　※2 評価区分◎：目標達成率≧120%　○：100%≦達成率＜120%　△：90%≦達成率＜100%　×：達成率＜90%
　　－：評価できない

# 8.　環境経営活動計画の取組結果とそ評価、今後の取組み内容

・環境経営活動計画の実施状況は以下のとおりである。設定したほとんどの項目で取組が実施出来ている。
　しかし、必ずしも結果に結びつかない項目もあるもののまずはやり切りも目指す。
・今後は全社でこの取組を継続・発展させ、今一歩踏み込んだ取組を目指すと共に、環境目標の全項目達成を目指していきます。

**1. 二酸化炭素排出量の削減**

| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①電気使用量の削減 | 全社 | × | 1. 本社事務所の室温は、夏場・冬場の適温をエアコンで調節する | ○ | ＜現状＞<br>・取組については、電気使用量、ガソリン使用料は未達成であったが、軽油使用量が目標を達成した為、結果として、二酸化炭素排出量削減も目標達成となった。<br>目標設定の基礎数値を2017年度基準から2020年度基準に変更した為、直近の工事状況に近く実情に沿った内容となった。<br><br>＜今後＞<br>影響の大きい軽油使用量の削減は、継続しつつ、電気,ｶﾞｿﾘﾝについては、取組をさらに強化徹底する。 |
| | | | 2. ｴｱｺﾝの清掃(ﾌｨﾙﾀの清掃・室外機の保護)を行う。 | ○ | |
| | | | 3. 業務終了時に完全に電源を切る（PC）<br>週末はコンセントから抜く（PC・家電類） | ○ | |
| | | | 4. 倉庫・トイレは使用時のみ点灯<br>不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF | ○ | |
| ②ガソリン使用量の削減 | 事務所 | × | 1. 無駄なアイドリングをさける | ○ | |
| | | | 2. ﾀｲﾔの空気圧ﾁｪｯｸを行う | ○ | |
| | | | 3. 社有車の走行距離と燃費を管理する | ○ | |
| ③軽油使用量の削減 | 現場 | ○ | 1. 急減速、急加速をさける | ○ | |
| | | | 2. 無駄なアイドリングをさける | ○ | |
| | | | 3. 現場規模に合った重機を使用する | ○ | |
| | | | 4. 適切な作業ﾓｰﾄﾞで作業を行う | ○ | |
| | | | 5. 燃料無噴射状態(ｴﾝｼﾞﾝﾌﾞﾚｰｷ)等の走行をする | ○ | |
| | | | 6. 社有車の走行距離と燃費を管理する | ○ | |

備考）達成状況区分　◎：目標達成率≧120%　○：100%≦達成率＜120%　△：90%≦達成率＜100%　×：達成率＜90%
　　実施状況区分　○：実行されている　　△：ほぼ実行されている　×：実行されていない　－：該当なし
　　－：評価不可

車種別運行記録

## 2. 廃棄物排出量の削減

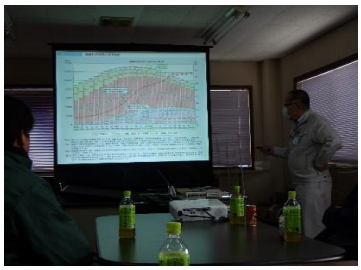
| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①一般廃棄物排出量の削減 | 事務所 | × | 1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する | ○ | ＜現状＞<br>・取組の状況は概ね良好であるが、検査終了後の廃棄資料増加し、結果に影響した。<br>重複資料削減はでできていない、まずは帳票の棚卸から。ﾏﾆﾌｪｽﾄの管理は徹底できた。<br>＜今後＞<br>・不要な帳票があれば削減する。 |
| | | | 2. 裏紙使用、両面ｺﾋﾟｰの励行 | ○ | |
| | | | 3. 情報機器を使用し共有化を行い、重複資料等を減らす | × | |
| ②産業廃棄物のリサイクル率の向上 | 現場 | ○ | 1. 現場における廃棄物の分別徹底 | ○ | |
| | | | 2. 現場代理人はマニフェストの管理を確実に行う | ○ | |

## 3. 水使用量の削減

| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①水使用量の削減 | 全社 | ◎ | 1. 日常の節水・漏水の点検 | ○ | ＜現状＞<br>・計画通り達成できた。<br>＜今後＞<br>・効率的な洗車方法等を確立させていく。（洗車機活用） |
| | | | 2. 節水の励行・洗車は必要最小限とする | ○ | |

## 4. 人材育成の推進

| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①人材育成の推進 | 事務所 | ○ | 1. 建設キャリアアップシステム導入準備 | ○ | ＜現状＞<br>・５月にシステム導入完<br>・技能研修は実施<br>＜今後＞<br>・システムの活用 |
| | 現場 | ○ | 1技能研修の実施 | ○ | |



## 5. 社会貢献活動の推進

| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①社会貢献活動の推進 | 全社 | ◎ | 1. 地域等のボランティア活動に積極的に参加する。（要確認） | ○ | ＜現状＞<br>・道路清掃作業に参加<br>＜今後＞<br>・継続して推進する |

## 6. 工事の品質向上

| 活動項目 | サイト区分 | 達成状況 | 達成手段 | 実施状況 | 評価と今後の取組 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①工事評価点の向上 | 現場 | ○ | 1. 工程手順と天候を確認し、効率的な段取りを行い、工期を遵守する | ○ | ＜現状＞<br>・計画通りの実施<br>施工管理、安全対策<br>創意工夫について強化<br><br>＜今後＞<br>・前期比減点項目を強化<br>工程管理、出来栄え<br>品質を強化する |
| | | | 2. 評価点結果を分析し、弱点領域を強化する | ○ | |
| | | | 3. 工程毎の書類・写真管理を徹底する | ○ | |
| | | | 4. 発注担当者との情報共有・コミュニケーションを積極的に行う | ○ | |

# 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

| 適用される法規等 | 適用される事項（施設・物質・活動等） | 評価 |
|---|---|---|
| 廃棄物処理法 | 一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出<br>マニフェストの交付・回収・保管の適正処理、定期報告 | ○ |
| 建設リサイクル法 | 一定規模以上建築4品目の分別解体と再資源化 | ○ |
| 騒音規制法 | 特定建設作業の届出<br>建設現場での機械使用時の騒音レベルの遵守 | － |
| 振動規制法 | 特定建設作業の届出<br>建設現場での機械使用時の振動レベルの遵守 | － |
| フロン排出規制法 | 事務所2Fエアコン、重機、農業機械エアコン<br>定期点検の実施（3か月） | ○ |

備考） 評価区分 ○:遵守　×:不遵守　ー:該当なし

# 10. 代表者による全体評価と見直しの結果

・今回のエコアクション21運用期間終了後に、代表者による取組状況の全体評価と、計画の見直しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

**(1)取組状況の全体評価**

・目標値基準を変更し2年目であるが、環境経営目標は概ね達成したが、個々には未達項目がある。具体的には、環境経営目標については、二酸化炭素排出量削減は達成となった。また、取組目標である電気・ガソリンの使用料削減については目標未達となったが、軽油使用料削減については目標を達成した。

・その他の未達項目としては、一般廃棄物の削減が、検査終了後の廃棄物量増加により未達成となった以外は全て達成となった。

・全体として、一部未達はあるものの、概ね良好と判断します。

（見直しの結果）

・今季未達項目については、計画基準値も含めて再検討を実施してください